

# まちかどニュース

身近なイベントや、まちかど話題を皆さんから募集しています。

## 各事業所が競い合う「平成28年度自衛消防訓練審査会」

9月14日、コミュニティプラザひまわりで、「平成28年度自衛消防訓練審査会」が行われました。審査会では、22か所の事業所から28隊が参加し、地震により火災が発生したとの想定による行動などについて、技術を競い合いました。今回入賞した事業所(チーム)は下表のとおりです。

種別	表彰	事業所(チーム名)
1号消火栓	優勝	清瀬リハビリテーション病院B
	準優勝	日本サーモスタート株式会社A
	準優勝	清瀬市役所
2号消火栓	優勝	特別養護老人ホーム上宮園
	準優勝	救世軍自省館
	準優勝	信愛病院
混成隊の部	優勝	清瀬市役所
	優勝	清瀬市役所
	準優勝	東京病院
混成隊の部	優勝	しんあい清戸の里
	準優勝	しんあい清戸の里
	準優勝	しんあい清戸の里



訓練の成果を発揮する隊員の皆さん

## 小学生による「第23回人権メッセージ発表会」

9月10日に、清瀬けやきホールで、「第23回子どもたちからの人権メッセージ発表会」(多摩東人権啓発活動地域ネットワーク協議会・東京法務局府中支局・清瀬市主催)が開催されました。

この発表会は、東京法務局府中支局管内13市の小学4～6年生が学校生活などで得た体験を題材にし、人権メッセージを考えることで自分自身や友達の大切さに気づき、人権を身近に感じることを目的としています。

清瀬市からは、高橋陽之さん(四小6年)が「ぼくの家族」、上野裕貴さん(七小6年)が「しんらいされる人になりたい」、アンダーランド・ジュイダさん(東星学園小6年)が「大切にしたい人権」、宮澤大地さん(三小5年)が「いじめはいけない」をテーマにメッセージを発表しました。

また、司会は清明小6年工藤直也さん・吉田真海菜さんが、舞台係は同じく清明小6年の矢田空大さん・船瀬遼脩さんが務め、アトラクションとして十小の生徒による合唱も行われました。

当日は、市内外から大勢の方にお越しいただき、人権について考えてもらう機会となりました。



人権メッセージを発表された皆さん。清瀬市からは高橋さん(写真前列右)・上野さん(前列左から5番目)・アンダーランドさん(中列右から4番目)・宮澤さん(後列左から3番目)が発表を行い、工藤さん(後列左から2番目)・吉田さん(後列左)が司会を、矢田さん(前列左から3番目)・船瀬さん(中列左から2番目)が舞台係を務めました。

## 市に貢献された方々の表彰式を行いました

10月1日、アミューホールで「市民表彰」及び「技能功労彰」の表彰が行われ、市民表彰22人・6団体、技能功労彰7人の方が表彰されました。表彰者は次のとおりです。(敬称略・順不同)



■市民表彰			
村野健	鈴木博子	清水かね子	平塚信敏
石井博樹	田島通夫	小松翠	大塚弘枝
山下浩文	佐藤美枝子	ボランティアグル	水村史郎
五野上健太郎	深野幸男	ープ喫茶みやび	ニッセイロール
田村公治	澁谷秀夫	清瀬美術家懇話会	ペーパー株式会社
市瀬文子	岩崎敬司	はたおり伝承の会	社
齋藤寛子	石田功	清瀬管弦楽団	青梅信用金庫
市川冷子	井上隆支	笛生かをり	

■技能功労彰		
安田要(製麺業)	山下一男(建築士)	増田弘(農業従事者)
戸口秋男(鉄工業)	金子保(農業従事者)	並木紀子(美容師)
松村保喜(造園技師)		

**臨時職員募集**

資格 管理栄養士、若干名  
 勤務日時・場所 月2・3日程度、健康推進課勤務  
 申込み・問合せ 10月17日から31日までの平日午前8時30分～午後5時に市ホームページからダウンロードできる臨時職員登録申込書に必要事項を記入し、10月31日(郵送は必着)までに資格を証明するものの写しを添えて、直接窓口または郵送で健康推進課保健サービス係 ☎497・2077へ

## 3本の木とともに

大林組技術研究所が清瀬の小学生たちの想像力・創造力をとんでもなく引き出してきて、感謝のうめありませう。子どもたちが描いた数々の絵が輝いています。この夏に、市内小学生を対象に募集された「大林組テクノフェア2016 絵画コンクール」技術研究所開所50周年記念行事の作品です。テーマは「私たちが住みたい未来のまち」。「こんなまちがあったらいいな」という、「未来のまちに関するアイデア」を絵で表現してください」というものでした。

「災害のないプロペラ空中都市」「みんなであそぼう！ アニマルワールド」「うちゅうまでつながるとうめいトンネル」「ゆれない町」など、約700点が研究所に飾られ、子どもたちの夢、パワーが迫り来てとても気持ちよく、圧巻でした。

これは東京スカイツリーはもちろん夢のまた夢、宇宙エレベーターを大構想する大林組の技術進化追求魂が子どもたちの心を揺さぶり、本気にさせたに違いない。やっばり本物は本物、以心伝心です。改めて技術研究所に感謝です。さて、子どもたちの本気を引っ張り出している石田波郷俳句大会も今年で8回目を迎えます。応募句数が子どもたちだけで何と8千句を超えたそうです。市外からの句数も約35%となり、俳句人気が市内外に広がっています。第8回ですから、私も今年は気合いを入れて20句を投じました。

## これは東京スカイツリーはもうろん

これは東京スカイツリーはもうろん夢のまた夢、宇宙エレベーターを大構想する大林組の技術進化追求魂が子どもたちの心を揺さぶり、本気にさせたに違いない。やっばり本物は本物、以心伝心です。改めて技術研究所に感謝です。さて、子どもたちの本気を引っ張り出している石田波郷俳句大会も今年で8回目を迎えます。応募句数が子どもたちだけで何と8千句を超えたそうです。市外からの句数も約35%となり、俳句人気が市内外に広がっています。第8回ですから、私も今年は気合いを入れて20句を投じました。

こんな私に呼応してくれたKSさんが、先週中里の敬老大会で詩をよせてくれました。【秋風に まだまだ咲いている 猿すべりの花 私も負けずに咲かそう もうすぐ喜寿の老花を】。片隅に「四つ葉のクローバー」が飾られています。ノール賞を受賞された大隅教授も、四つ葉のクローバーを見つけたのが得意と



清瀬市長 渋谷金太郎

## 開催 市と市内三大学連携事業『清瀬アカデミア』

地域包括ケアシステムの構築に向けた医療と介護の連携のあり方について、地域医療に従事している医師と清瀬市内の医療・福祉系の三大学(日本社会事業大学・明治薬科大学・国立看護大学校)と行政がパネルディスカッションを行います。在宅医療・介護について関心がある方ならどなたでも参加可能です。先着180人。  
日時 11月16日(水)午後1時30分～4時(午後1時より受け付け)  
場所 アミューホール  
内容(予定) ①講演『清瀬市が取り組む地域包括ケアシステム』: 平野功氏(一般社団法人清瀬市医師会会長/清瀬市医療・介護連携推進協議会会長) ②パネルディスカッション: 各大学、清瀬市から各1人登壇し参加者の疑問にお答えします。  
主催 清瀬市大学連携推進協議会  
申込み・問合せ 直接窓口または市内公共施設などに置いてある申込み用紙からファクス・はがき(記入事項は申込み用紙を参照)、市ホームページ、電話で企画課企画調整担当 ☎497・1802へ

## 清瀬 こども俳句

小・中学生の俳句を紹介するコーナー。ぜひ応募ください。 選評 石田波郷俳句大会実行委員会

●ヤドカリに負けずからをかえていく 四中一年 土田花菜  
 (評)「ヤドカリ」は「うな」とも言い、春の季語。漢字表記は「寄居虫」となるが、虫ではなく、ご存じのようにエビやカニの仲間。そして、これまたご存じのように巻貝の貝殻に入って生活をする。まさに「宿借り」の姿で、成長に従って貝殻も大きいものに替える。自分もそのようにありたい、と、希望のある、春らしい一句。

●夕立に途方にくれた通信簿 二中一年 清水康平  
 (評)「夕立」は、夏の代表的な季語の一つ。夏の夕方、急に曇ってきたかと思つと、あつという間に激しい大粒の雨が降り、ときに雷を伴う。いずれにせよ、「突然」感のある現象で、ほとんどの場合、雨用意がなく途方にくれることが多い。この句では、思いもかけぬ成績表を手にしたときの感じを夕立に託して、成功した。

●タンポポが居場所探しに空を舞う 五中二年 本道祥太  
 (評)「タンポポ」は、春の草花を代表する季語で、俳句にも多く詠まれており、日本中で見られる実際の親しさとともに、たんぽぽという音感も好まれているのだろう。そのなかで、この句の場合は、いわゆるたんぽぽの絮を詠む。空中を流れる様子を「擬人法」で中七にした。「擬人法」は、独りよがりにならなければ有効な詩の技法となる。

※今回の俳句は「第7回石田波郷俳句大会」ジュニア部の入選作から。